

## 9 膀胱全摘・回腸利用尿路変向術施行例における周術期イレウス発症に対する漢方薬の有効性の検討

香川大学医学部附属病院 泌尿器・副腎・腎移植外科

加藤 琢磨、小橋口 佳な、三浦 高慶、土肥 洋一郎  
松岡 裕貴、宮内 康行、田岡 利宜也、常森 寛行  
上田 修史、杉元 幹史、笥 善行

### 【背景と目的】

大建中湯はイレウスの治療に有効とされている。腸管利用膀胱全摘施行例における周術期イレウスに対する大建中湯の予防内服の有用性について検討する。

### 【対象と方法】

2014年9月から2019年7月までに当院にて腸管利用膀胱全摘術が施行された40例を対象とした。周術期イレウスの発症頻度、グレード、イレウス発症のリスク因子について後方視的に検討した。群間比較はFisher's exact testにて行った。

### 【結果】

胃管抜去の中央値は1日(0-10日)、飲水開始の中央値は1日(0-11日)であった。大建中湯の予防的内服は33例(82.5%)に行われ、内服は飲水開始と同時に行われた。周術期イレウスは11例(G2:8例、G3:3例)に認め、予防内服群の27.2%(9例)、非内服群の28.5%(2例)にイレウス発症がみられた。大建中湯予防内服の有無( $p=0.63$ )、パントール予防点滴の有無( $p=0.64$ )、年齢( $70 \leq v s < 71$ ;  $p=0.18$ )、BMI( $23. \leq 23.7 v s 23.7 <$ ;  $p=0.5$ )、modified GPS(0 vs 1, 2;  $p=0.07$ )、腹部外科手術の既往の有無( $p=0.61$ )、術式(開腹 vs ロボット;  $p=0.37$ )、手術時間(520分未満 vs 521分以上;  $p=0.5$ )、出血量(950ml未満 vs 950ml以上;  $p=0.5$ )、術中バランス(3000ml未満 vs 3001ml以上;  $p=0.09$ )、ICU入室から歩行開始までの時間( $2057分 \leq v s 2265分$ 以上;  $p=0.09$ )の各因子について単変量解析を行ったが、有意な因子はみられなかった。

### 【結語】

大建中湯内服群と非投与群の二群間でイレウスの発症に有意差はみられず、大建中湯の予防内服の有用性は見いだせなかった。